

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 山門		
所在地	宇部市山門四丁目6番24号		
電話番号	0 8 3 6 - 3 7 - 6 1 5 1	事業所番号	3570200638
法人名	社会福祉法人 むべの里		

訪問調査日	平成 21 年 11 月 30 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 24 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	8 人	常勤 5 人 非常勤 3 人 (常勤換算 6 , 8 人)	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 27,000 円		敷金	無し 円	
保証金	無 円		償却の有無	無	
食費	朝食	400 円	昼食	500 円	
	夕食	500 円	おやつ	1 ヶ月1,000 円	
その他の費用	月額 11,000 円				
	内訳 光熱水費 11,000円 . 通信費 2,000円/年				

(4)利用者の概要 (11 月 30 日現在)

利用者数	8 名	男性	0 名	女性	8 名
	要介護 1	2	要介護 4	1	
	要介護 2	3	要介護 5	0	
	要介護 3	2	要支援 2	0	
年齢	平均 83 歳	最低 79 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療 機 関 名	医科 むべの里診療所、にしむら内科医院 歯科
---------------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)	近隣の人が事業所に実る梅や柿などを貰いに来られたり、自宅で収穫した野菜を事業所に持ってこられたり、日光浴をしていると声かけをされるなど近隣の人々と日常的に気軽な交流をされています。ケアプランの実施を充実するために、生活日誌に目標、具体策を分かりやすく掲げ、介護実施記録を出来るところは簡素化したり記録様式を工夫され、生活日誌を効果的に利用されています。
(特徴的な取組等)	月2回の介護相談員の来訪によって、利用者や家族に不満のないような環境づくりや利用者・職員の心に安堵感を与えておられます。近くのコンビニエンスストアに働きかけて緊急時の協力が得られるようになり夜勤者にとって心強い協力者が出来ています。高校の園芸部と交流して野菜作りをすることは利用者にとって楽しい活躍の場ともなっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)	全職員に評価の意義を説明し理解を得て、苦情処理手順の作成、利用者の希望に沿った外出支援の工夫、事故発生マニュアルの作成、薬の副作用、用法、用量の理解 など、できることから改善に取り組んでおられます。
(今回の自己評価の取組状況)	管理者は職員に評価の意義を説明し理解を得て、自己評価書を全職員に配布し記入してもらい管理者がまとめておられます。
(運営推進会議の取組状況)	連合自治会長、市高齢福祉課職員、家族(全家族に案内)、全利用者、職員で定期的開催しておられます。生活状況や行事の報告、近況報告、外部評価結果報告、緊急対応についての意見交換や検討等を行い、サービスの向上に活かしておられます。
(家族との連携状況)	毎月、ホーム便りや利用料請求書、金銭出納明細書と一緒に、利用者の生活状況を書いた担当者の手紙を添えて郵送しておられます。利用料支払のための来訪時に家族の意見や要望を聞いておられます。来訪できない家族や緊急時は電話で報告したり、イベントの写真を年に1～2回送付しておられます。
(地域との連携状況)	自治会に加入し、広報誌が届けられたり、地域のお祭りに参加しておられます。近隣の人が事業所に実る梅や柿などを貰いに来られたり、野菜を持ってこられたり、通りがかりに声かけをされるなど近隣の人々と気軽に交流されています。また、地域のボランティアの来訪、中学生の職場体験、高校生との野菜作り等の地域交流や、近隣のコンビニエンスストアから緊急時の対応協力が得られるよう取り組まれています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の人々と触れ合いながら、共に支え、支えられながら今まで暮らしてきた生活観を大切にする」という事業所独自の理念を作成している。		
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務室に掲示し、毎朝唱和し、会議で話し合いをするなど理念の実践に向けての取り組みに努めている。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、広報誌が届けられたり、祭りに参加している。近所の人々が事業所に実る梅や柿などを貰いに立ち寄ったり、収穫した野菜を持って来られたり、日光浴をしていると声をかけられるなど近隣の人々と気軽に交流している。また、近くのコンビニエンスストアと非常時の対応の協力が得られるようになっている。地域のボランティアの来訪や中学生の職場体験、高校生との野菜作り等で交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員に評価の意義を説明し、職員全員が自己評価を記入し管理者がまとめている。外部評価は運営推進会議で報告し検討して、出来るところから具体的な改善に取り組んでいる。		
5 (10)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	連合自治会長、市高齢福祉課職員、家族(全家族に案内)、全利用者、職員で定期的に開催している。生活状況や行事の報告、外部評価結果報告、緊急対応についての意見交換や検討等を行いサービス向上に活かしているが、メンバー拡大の検討には至っていない。	○	・メンバー拡大の検討
6 (11)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活保護の担当課、介護保険課との連絡や協議などを行ったり、月2回の介護相談員の来訪時に相談や助言を受けて、利用者一人ひとりに合ったサービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制				
7 (16)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月、ホーム便りや利用料請求書、金銭出納明細書と一緒に利用者の生活状況を書いた担当者の手紙を添えて郵送している。利用料支払の来訪時に家族の意見や要望を聞いている。来訪できない家族や緊急時は電話で報告したり、イベントの写真を年に1～2回送付している。		
8 (18)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	運営推進会議（家族全員に案内）や介護相談員の訪問時（月2回実施）に、家族等の意見や苦情を表せる機会を設け、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し苦情処理手続きを定めている。		
9 (20)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤5名、非常勤3名の職員体制で、緊急時には近くの職員、管理者で対応し、職員の代替として休暇の職員に依頼する仕組みをつくり勤務調整をしている		
10 (21)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	離職はほとんどなく、法人内の異動は最小限に抑える努力をしており、異動の場合は日勤2週間、夜勤2回の重複勤務期間を設け、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援				
11 (22)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人の研修はキャリアアップ研修と介護福祉士の資格取得研修があるが、外部研修は情報提供のみで全職員の研修機会が少ない。	○	・全職員の研修参加の機会の検討
12 (24)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入し、ブロック勉強会に参加して同業者との情報交換や交流をし、日常のケアサービスの質の向上に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	職員が施設に出向いて面接したり、本人と家族に事業所を何度か見学してもらうなど家族と相談しながら事業所の雰囲気馴染める工夫をしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	人生の先輩として、雑事の相談や、梅干のつけ方、干し柿の作り方、方言、漢字などを教えてもらったり、感謝の言葉をかけあうなど学んだり支えあう関係づくりに努力している。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活日誌から1日の生活の流れを把握し、一人ひとりを総合的に見る努力をしている。日々のかかわりの中での気づきを利用者一人ひとりの生活日誌に記録することで職員は利用者の意向を共有している。困難な場合は全職員で話し合っ本人の意向の把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族から意見や要望を聞いて担当者が介護計画を立案し、ケース会議で話し合った後、計画作成担当者がまとめて作成している。	
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	生活日誌に介護目標を分かりやすく記載し、介護実施状況を可能なことは記号化し重要なことは赤ペンで記録するなど、記録が工夫されており見やすくなっている。計画の見直しは原則3ヶ月に1度に行っているが、毎月のケース会議は生活日誌で話し合っており、必要に応じてその都度見直しをしている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療連携体制を活かして受診の付き添い、早期退院、月2回の訪問看護等の支援をしている。買い物など個別の外出支援などにも対応している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取 組みを期待 したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人、家族と話し合い、協力医療機関等の医師をかかりつけ医とする同意を得て、家族と事業所、かかりつけ医は常に情報を伝達共有し、適切な医療が受けられるよう支援している。	
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	早い段階から本人、家族、かかりつけ医、職員等で話し合い、事業所が対応し得るケアについて説明をし、全員で方針を共有している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	マニュアルを作成し、職員同士で言葉かけを意識するなど利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努め、記録、個人情報等は事務室の専用棚で管理している。	
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日の流れは概ね決まっており、一人ひとりの希望にそった柔軟な支援をすることの大切さを承知しながらも、目のケアを優先し職員のペースになっていることがある。	・利用者一人ひとりの希望にそった支援の検討 ○
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	法人からの配食サービスで利用者と一緒に盛り付け、配膳、片付けなどを行っている。また、月1回の外出、月2回の事業所での手作り料理、月2回のおやつ作りなどをして利用者と一緒に食事を楽しむ機会をつくっている。	
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴可能で、入浴時間は15時30分から17時30分で、気のあった利用者同士に配慮して2人入浴の対応をしている。毎日入浴できるように声かけなど工夫している。必要に応じシャワー浴や清拭対応をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	月2回のビデオ鑑賞、絵手紙、読書、エレクトーンを弾く、散歩、配膳、洗濯物を干したり、たたんだり、高校生との畑作りなど利用者一人ひとりに応じた楽しみごと、気晴らしや活躍出来る場面づくりの支援をしている。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物、外食、散歩、地藏様参り、四季の花見、日光浴をしたり、利用者の希望にそった外出支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルを作成し、職員は拘束について理解している。月1回のケース会議時やその都度、管理者が言葉使用などの指導をするなど抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	見守りやすい共用空間になっており、利用者の外出しそうな様子を察知した時は、さりげなく声をかけたり、気分転換の工夫をしたり、一緒に出かけるなどして日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故発生予防に関するマニュアルがあり、ヒヤリはっと報告書を整理し、職員間で予防策について話し合い、介護計画に取り入れて一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	発生時対応マニュアルを作成し、訪問看護師を講師とした救急時の対応等の勉強会を実施しているが、定期的訓練の実施には至っていない。	・定期的訓練の実施 ○
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	災害発生時対応マニュアルを作成しており、年2回の避難訓練(夜間想定訓練を含む)や消火器使用訓練を実施し、避難場所の確認もしている。緊急時には近くのコンビニに協力の承諾を得ているが自治会や消防団等の地域の協力要請はしていない。	・地域の協力体制の検討 ○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム山門
所在地	〒755-0077 宇部市山門四丁目6番24号
電話番号	0836 (37) 6151
開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (10月26日現在)

ユニットの名称	グループホーム山門				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護1	2	要介護4	1	
	要介護2	3	要介護5	1	
	要介護3	2	要支援2	0	
年齢構成	平均 85 歳	最低 79 歳	最高 100 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員全員に自己評価所を渡し、記入出来る所のみでいいので書いてもらいました。回収した書類に目を通しながら記入しました。
評価確定日	平成 21 年 10 月 25 日

【サービスの特徴】

目的 地域に開かれた老人福祉を実施することを目的としています。
運営方針 思いやりと優しさを持って、お年よりの「自立と尊厳」を大切に致します。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (必ず 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「地域の人々と触れ合いながら、共に支え、支えられながら今まで暮してきた生活観を大切にすると理念を掲げ、職員全員で意識統一している。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念が飾りにならないように、会議等で話し合いをしている。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	運営方針を掲示し、毎朝、唱和している。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	サービスの質の向上に向け、お互いに話し合いながら理念に向って意思統一がはかれるよう熱意を持って取り組んでいる。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	お祭に参加したり、ホームページや広報で知らせている。	
2. 地域との支えあい			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	梅や柿木がある為、近所の方が貰いに来られたりして気軽に立ち寄られている。また、皆で日光浴をしていると近所の方が声を掛けてくださる。	
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ボランティアに入ってもらったり、学生さんに職場体験学習で入ってもらったりしている。	
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	災害時の一時避難場所として開放できればと思っています。	○ 推進会議の議題にあげる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印（取り組んでいる項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	〇評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	〇運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
11 (6)	〇市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	〇権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	〇虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	〇契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	〇運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	〇職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	新人歓迎会、職員旅行、忘年会等で気分転換をはかっている。また、職員からの相談等あればいつでも相談にのっている。何かあれば本部に相談する。		
26	〇向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格取得へ向け、研修会や講習への積極的な参加を促している。		
27	〇職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	法人での人事考課により、一人ずつ評価している。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	〇初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	初回訪問を行い、本人さんとも話して溶け込みやすい雰囲気作りに努めている。		
29	〇初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前に話を聞いて、不安を解消して頂ける様にしている。		
30	〇初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その方にとって一番必要なサービスは何かを見きわめ、適切なサービスの紹介を行っている。		
31 (13)	〇馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	施設に何度か足を運んでいただき、雰囲気慣れていただくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	〇本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	その方に何が出来るかを見きわめ、自分でも人の役に立っていると思っていただけるよう支援している。また、人生の先輩として相談したり尋ねたりしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○甲 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来園された時、日々の暮らしであった事をお話したり、今の状態を説明し、家族の方に安心して頂けるように努めている。		担当職員が月に1度手紙を書きご本人の今の状況を知らせている。
34	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	月1度、お手紙を書き、本人の状況を家族に知らせている。行事の参加もお願いする事がある。		1人ひとりの担当者を決め、担当職員が衣服の整理、家族との連絡をとっている。
35	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外食等のお誘いがあれば、体調が悪くなければ出かけていただいている。		
36	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	お手伝いの声掛け、ねぎらいの声掛けなどは平等にし、一人ひとりの方が気持ち良く、お手伝いして頂ける様に心がけている。		
37	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お見舞いに行ったり、相談に乗ったりして、不安がないようにして頂ける様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	テレビやエレクトーンを置いたり、花を飾ったりしてご本人の希望・意向の把握に努めている。		
39	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントを見て、状況を理解し対応している。また、ご家族やご本人のお話の中から知るように努めている。		
40	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日の生活の流れを記録に残し、気になる事は詳しく記録している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
41 (16)	〇チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	1人ひとりの担当者を決め、3ヶ月に1回ケアプランをたて、ケース会議を開き、話し合いを行っている。出来上がった計画書は、家族の印鑑をもらい一部渡している。		日誌に1人ひとりの目標、具体策を掲げ実行した場合は赤ペンで記入する様になっている。
42 (17)	〇現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	面談を行い、ご家族の意向に沿えるようにしている。		
43	〇個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	チェック表や記録を見て、その都度ケアプランの見直しを共に行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
44 (18)	〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じて、併設の通所介護へ伺って気分転換を図っている。また、ご家族が行かれない時は、病院受診の付添いをしたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
45	〇地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアの受入れを行っている。		
46	〇事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ボランティアの受入れや、研修生の受入れ、職場体験学習の中学生を受入れている。また、相談等あれば対応している。		
47	〇他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居者の状況や地域の状況を含め、機械を探している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	〇地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		
49 (19)	〇かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		
50	〇認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		
51	〇看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
52	〇早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。		
53 (20)	〇重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。		
54	〇重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		
55	〇住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	<u>○プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
57	<u>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
58	<u>○“できる力”を大切にしたい家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		
59 (22)	<u>○日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している。	○	職員もゆったりした気持ちで一人ひとりの希望にそえるように努めたいと思う。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<u>○身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		ご家族の方の要望がある方は美容師に伝え、なるべく要望にそえるようにしている。
61 (23)	<u>○食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		ご本人の出来る能力を見極め無理のない範囲で手伝って頂く。
62	<u>○本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	○	一人ひとりの状況に合わせて支援してきたい。
63	<u>○気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		排泄チェック表に排便は赤ペンで記入し、毎日排便がある様に心がけている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴はして頂いているが、どうしても時間帯を決めて入って頂くようになる。	○	もう少しゆとりをもって入浴と一緒に楽しめるようにしていきたい。
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	体調に合わせて、昼寝を必ずして頂くように取り組んでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	本を読まれる方、新聞を読まれる方、エレクトーンをひかれる方とその日の気分で生活されている。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	以前は自分で持っておられた方もいたがお金がどこに行っただかわからなくなる為、ご家族の了解を得て、全員ホームで預っている。買物に行った時は預った中から出している。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買物、散歩、ドライブ等個別に対応している。また、歩行不安定な方は、外に椅子を出し日光浴してもらっている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	行動範囲が限られている中で、少しでも喜んでいただける場所を選んで。また、ご家族と共に出かけられる方もいる。	○	ご家族と出掛けられる方は一部の方なので行事等参加の声掛けを細めにしていきたい。
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から電話や手紙が来る時は、おつなぎしている。また、帰宅願望を訴えられた時はご家族にお願いし、帰宅してもらっている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来園された祭は、居室でゆっくりしてもらえらるよに対応している。いつでも訪問して頂ける様声掛けしている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊についても対応している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいる項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	○	参加して下さる家族はいつも決まった方々なので、多くの家族が参加して下さる様行事を考えていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。		1ヶ月に1回のケース会議や山門会議の時に言葉使いの声掛けはしている。ドラッグロックは、家族や職員、主治医と相談しながら減らしていくよう努めている。
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		常に利用者の動きを気にかけて、外に出て行こうとされる時は、早めに察知し声掛けしている。
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		常に見守りをしたり、職員間で所在確認や様子について把握するように努めている。
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。		薬や洗剤、刃物等は利用者の目の届かない所に保管している。また、爪切りは職員が行うようにしている。
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		学習会や実地訓練等、状況に応じて全員で取り組んでいる。
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	○	推進会議の時に、1回訪問看護師に転倒や救急時の対応を教えてもらったが、定期的に行ってきたい。
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や“ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。		何かあれば、事故報告書やヒヤリハットに記入し、改善策を講じている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練をしている。また、近くのセブンイレブンのオーナーさんにお願いし、緊急時は従業員に来てもらうようにしている。	○	災害時の水や弁当等を地域の方をお願いしたい。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ケアプラン説明時にリスクについてはご家族に相談・報告を再度おこない、了承を得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の身体変化などを観察して、異常があれば看護師に報告している。また、職員間でも連携を行い、早期対応に努めている。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	利用者の体調により、主治医や看護師に連絡を取り、服薬確認や薬の変更を行っている。往診にも来て頂いているので、フィードバックもしている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	1日1リットル以上の水分補給及び朝の掃除、ラジオ体操、ホール内歩行、散歩などを取り入れ便秘解消に努めている。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、口腔ケアをしている。夕食後はミルトンに歯ブラシをつけ消毒している。また、義歯も外して入歯洗浄剤につけている。	○	歯科に行って歯のチェックをしたい。
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	ミキサーを利用し、キザミ食にしたり、水分補給状況に応じて合わせており、管理栄養士が献立も立てている。ご本人の好みも伺うようにしている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症に対するマニュアルがある。細めに手洗いやうがいを行っている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾は細めに漂白している。朝のみ食事を作るので、野菜は傷む事がある。	○	食材に購入した日にちを記入している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		玄関先に花を植えたり、いつでも開放しているので入りやすいようにしている。
91 (36)	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		おやつや食事時は好きな音楽をかけてくつろいでもらっている。季節の花を飾るようにしている。また、季節ごとに写真を貼りかえたり壁面など工夫している。
92	〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		ソファや椅子を置いて、利用者同士会話が出来るようにしている。
93 (37)	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		利用者の馴染みの物を持ち込んでもらったり、家族の写真等飾ってもらっている。
94	〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		入居者の状況に応じて、服を着て頂いたり、暑い場合には脱いで頂いたりしている。エアコンについても適温で対応し、換気も常に行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。		動きやすいように家具の配置をしたり、ベットの柵をつけてご本人が起居しやすいようにしている。
96	〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		トイレや風呂場の場所を表示したり、居室がわかるように写真などを貼っている。
97	〇建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		畑などがやし、好きな野菜や花などを植えてもらっている。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
V. サービスの成果に関する項目	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1/3くらいの ☒ ②利用者の2/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	☒ ①毎日ある ③たまにある ②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	☒ ①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	☒ ①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1/3くらいと ☒ ②家族の2/3くらいと ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに ☒ ②数日に1回程度 ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	☒ ①大いに増えている ③あまり増えていない ②少しずつ増えている ④全くいない
108 職員は、生き活きと働いている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1/3くらいが ☒ ②職員の2/3くらいが ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1/3くらいが ☒ ②利用者の2/3くらいが ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1/3くらいが ☒ ②家族等の2/3くらいが ④ほとんどできていない